



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年1月30日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 木曾路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 吉江 源之

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 服部 昭仁

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	32,416	0.6	△108	—	0	—	△170	—
28年3月期第3四半期	32,222	0.7	△216	—	△198	—	△397	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	△6.62	—
28年3月期第3四半期	△15.39	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第3四半期	37,276	28,141	75.5
28年3月期	37,614	28,659	76.2

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 28,141百万円 28年3月期 28,659百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	7.00	—	7.00	14.00
29年3月期	—	7.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	1.9	600	19.4	660	32.7	90	—	3.48

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年3月期3Q	25,913,889 株	28年3月期	25,913,889 株
29年3月期3Q	78,421 株	28年3月期	77,744 株
29年3月期3Q	25,835,806 株	28年3月期3Q	25,836,631 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、「添付資料」4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
(3) 追加情報	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(第3四半期累計期間)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
平成29年3月期	32,416	△108	0	△170	△6.62
平成28年3月期	32,222	△216	△198	△397	△15.39
増減率(%)	0.6	-	-	-	-

当第3四半期累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策により雇用情勢の改善から全体的に緩やかな回復基調で推移しました。その一方で、政策導入後の不安定な株価や円高の進行にはじまり、米大統領選後の急激な円安や株高、また、新興国経済の減速や欧米諸国の経済情勢変化による各国経済への影響懸念など、依然先行きは不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、消費者マインドの変化により節約志向が再び高まるとともに、天候不順や需給バランスの悪化による原材料価格の上昇、人手不足を背景とした人件費の増加など依然厳しい経営環境で推移しております。

このような経営環境の中で当社は、「日本一質の高い外食企業」を目指し、旗艦部門である木曾路部門を中心とした業務改革を推進し、強みである商品力及び接客力の強化とともに原材料の仕入や消耗品等の購入を見直し、より働きやすい職場づくりにも注力しました。また、木曾路部門は、一号店出店より50周年を迎え、これまでの感謝を込めて特別メニューの販売やイベントの開催を行いました。

店舗展開、改築・改装につきましては、3店舗の新規出店、3店舗の業態転換(ウノからじゃんじゃん亭・この、穂の里から鈴のれん)、4店舗の退店を実施し、その結果、当第3四半期会計期間末の店舗数は164店舗(前年同期比5店舗減少)となりました。

営業面では、多様化するお客様ニーズにお応えするため料理の品質向上や付加価値の高い旬の食材を使用した料理の販売とともに、接客サービスの充実とレベルアップに努めました。また、法人顧客囲い込みのより一層の強化を進めております。

費用面では、主要原材料である牛肉価格の高止まりや天候不順による生鮮食材などの値上がり、人手不足を背景とした人件費の増加、一方で、水道光熱費の単価低下や消耗品等の見直しによる節減、また減価償却費、賃借料などが減少しました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は324億16百万円(前年同期比0.6%増加)、営業損益は1億8百万円の損失(前年同期実績2億16百万円の損失)、経常損益は0百万円の利益(同1億98百万円の損失)、四半期純損益は1億70百万円の損失(同3億97百万円の損失)を計上しました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	前年同期比 増減率
	百万円	百万円	%
木曾路	26,924	27,328	1.5
素材屋	1,955	1,667	△14.7
じゃんじゃん亭	1,137	1,522	33.8
とりかく	796	881	10.7
鈴のれん	804	697	△13.3
その他	602	319	△46.9
計	32,222	32,416	0.6

木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は119店舗であります。

営業面では、季節毎のイベントや恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」に加え、一号店出店より50周年を迎え、特別メニューの販売や各種イベントを実施しました。また、強みである調理技術を生かした旬の一品料理の一新や法人顧客へのアプローチを強化しました。その結果、売上高は273億28百万円(前年同期比1.5%増加)となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は14店舗(前年同期末比4店舗減少)であります。

営業面では、炭焼き串焼きにこだわり、また自家製の惣菜料理や旬の食材を活かした季節メニューの販売、焼酎一升瓶のお値打ち販売を継続するとともに、少人数から大人数の様々な宴会利用ができる店舗として営業活動を行いました。しかしながら、前年同期末に比べ4店舗の減少もあり、売上高は16億67百万円(同14.7%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、2店舗の新規出店、1店舗の業態転換により、当第3四半期会計期間末店舗数は13店舗(同3店舗増加)となりました。

営業面では、「手切り、熟成肉、黒毛和牛」にこだわり食べ放題メニューの拡販とスピード提供、先手のサービスに取り組みました。また、法人や学生のイベントなどに合わせた予約獲得活動の強化に努めました。その結果、売上高は15億22百万円(同33.8%増加)となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、1店舗の新規出店、1店舗の業態転換、1店舗の退店により、当第3四半期会計期間末店舗数は11店舗(同1店舗増加)となりました。なお、業態転換の「九州味巡り ここの」は、食材と手作りにこだわった九州料理を中心に季節感のある一品料理の他、もつ鍋や黒豚しゃぶしゃぶなど九州定番の鍋料理を取り入れた宴会コースをお楽しみいただく九州料理の専門店であります。

営業面では、「手作り」「鶏」にこだわった料理と旬の逸品料理の販売を行い、また鶏料理の醍醐味と季節に合わせた食材の宴会コース、お客様ニーズの高い飲み放題メニューの充実を図り来店客数の増加に努めました。その結果、売上高は8億81百万円(同10.7%増加)となりました。

鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、店舗の異動はなく、当第3四半期会計期間末店舗数は6店舗であります。

営業面では、御膳や季節毎のメニューの充実、しゃぶしゃぶやすきやきの食べ放題メニューによる宴会、また慶弔などの行事に対応したメニューと人数に合わせた多様なお席を準備し来店客数の増加に努めました。しかしながら、平成27年6月の2店舗の退店、1店舗の業態転換による店舗減少もあり、売上高は6億97百万円(同13.3%減少)となりました。

その他部門

その他部門は、ワイン食堂の「ウノ」(平成28年5月に6店舗中、5店舗を退店(うち2店舗業態転換))、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

その売上高は3億19百万円(同46.9%減少)であります。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末 (平成28年3月31日現在)	当第3四半期 (平成28年12月31日現在)	増 減
総資産(百万円)	37,614	37,276	△338
純資産(百万円)	28,659	28,141	△518
自己資本比率(%)	76.2	75.5	-
1株当たり純資産(円)	1,109.30	1,089.25	△20.04

当第3四半期会計期間末の総資産は372億76百万円で前事業年度末比3億38百万円の減少となりました。主な要因は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩す一方で、季節的要因により売掛金、棚卸資産が増加したことによるものであります。負債は、91億35百万円で前事業年度末比1億80百万円の増加となりました。これは季節的要因により買掛金が増加する一方で、未払法人税等が減少したことによるものであります。また、当第3四半期会計期間末の純資産は281億41百万円で前事業年度末比5億18百万円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失1億70百万円(減少)、剰余金の配当3億61百万円(減少)であります。

以上の結果、当第3四半期会計期間末の自己資本比率は75.5%(前事業年度末は76.2%)、1株当たり純資産は1,089.25円(同1,109.30円)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年4月28日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,403	12,201
売掛金	1,031	1,508
商品及び製品	40	67
原材料及び貯蔵品	561	1,323
その他	859	927
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	15,895	16,027
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	6,563	6,227
土地	5,723	5,723
その他(純額)	1,457	1,412
有形固定資産合計	13,744	13,364
無形固定資産	117	125
投資その他の資産		
差入保証金	4,720	4,590
その他	3,166	3,199
貸倒引当金	△30	△30
投資その他の資産合計	7,856	7,758
固定資産合計	21,719	21,248
資産合計	37,614	37,276
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,309	1,961
短期借入金	920	920
未払法人税等	337	49
賞与引当金	486	196
その他の引当金	316	331
その他	2,679	2,761
流動負債合計	6,049	6,221
固定負債		
退職給付引当金	988	989
資産除去債務	1,300	1,307
その他	616	616
固定負債合計	2,905	2,913
負債合計	8,954	9,135
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	8,561	8,028
自己株式	△120	△122
株主資本合計	28,373	27,838
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	286	302
評価・換算差額等合計	286	302
純資産合計	28,659	28,141
負債純資産合計	37,614	37,276

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	32,222	32,416
売上原価	10,594	10,840
売上総利益	21,627	21,575
販売費及び一般管理費	21,844	21,684
営業損失(△)	△216	△108
営業外収益		
受取利息	11	12
受取配当金	26	24
協賛金収入	13	12
受取補償金	—	60
その他	11	14
営業外収益合計	62	124
営業外費用		
支払利息	6	5
賃貸借契約解約損	36	1
その他	2	8
営業外費用合計	44	14
経常利益又は経常損失(△)	△198	0
特別利益		
固定資産売却益	2	—
投資有価証券売却益	—	202
特別利益合計	2	202
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	33	14
減損損失	175	219
特別損失合計	208	234
税引前四半期純損失(△)	△404	△31
法人税、住民税及び事業税	88	88
法人税等調整額	△95	51
法人税等合計	△7	139
四半期純損失(△)	△397	△170

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。